

ワークショップ9 「大腸腫瘍内視鏡治療における工夫」

司会 岡 志郎 (広島大学病院消化器・代謝内科)
吉田 直久 (京都府立医科大学消化器内科)

近年、大腸内視鏡治療の技術的進歩は目覚ましい。偶発症の少ない cold polypectomy や underwater EMR、より確実な一括切除法として pre-cutting EMR や hybrid ESD も普及しつつある。また、ESD 手技の工夫として、操作性に優れた処置用スコープ、長時間膨隆維持可能な新規局注液、より安全な高周波ナイフの開発、種々のカウンタートラクション法が報告され、LECS を含めた内視鏡的全層切除も臨床応用され始めている。本セッションでは、大腸腫瘍に対するさらなる標準化と治療成績向上を目指した治療手技の工夫や試みについて広く演題を募集する。